

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

初挽きの御輿担ぐ子旗持つ子今年増えたり声
 こだまして 鈴木 茂子
 初詣で電車こみあうことも良し福わかちあう
 心持ちなり 齋藤 典子
 雪残る城の麓に初日射し色映えてまぶし心改
 まる 後藤今朝雄
 何か良いことがあるよとポランティア笑顔で
 御節配る公園 大庭 良子
 夢といふ不思議なるもの折々に見知らぬ場所
 へ我を誘ふ 寺崎 悦子
 認知症の母を案じつつ風のなか施設に向かい
 ペダルふみゆく 鎌田ねい子
 玄關の鏡の前が好きを母うつりゆくもの映画
 と言いぬ 石田みどり
 寺参りすれ違ひゆく老僧も寒さしのぎの般若
 湯かな 遠藤 行夫
 去る日近くふたたび花を見んことのなき庭の
 辺を春の風吹く 大槻 きよ
 百冊の辞書が詰まっているという電子辞書を
 ばしげしげと見る 四電 英夫

【評】一首目、地域とともに成長する子どもたちを
 を活写。見守るみなさん方のお姿も思われる。
 二首目、第四句の「福わかちあう」が、ほ
 のほのと響く。
 三首目、ふるさととのすがすがしい新年の景
 に、思いは新た。

俳壇

遠藤 秋尾 選

美しく日の出に染まりゆく障子 山家 弘子
 初日の出白石城を輝かす 高子うこん
 天守閣より元日のうすあかり 跡部祐三郎
 合戦のまだとのはず雪つづて 齋藤 典子
 受け継ぎし味たしかめて雑煮膳 福原 峯子

「成人」

風間市長の風の色さやき

今年の成人式では、441名の方々が大人の仲間入りを果たしました。式には383名の新成人が出席。新成人でつくる、実行委員会の企画運営の下、とても穏やかで、厳粛で、思い出に残るような式となりました。天候にも恵まれ、本当に素晴らしい成人式でした。実行委員の皆様、ご苦労さまでした。

今回の成人式は、昭和63年4月2日から平成元年4月1日生まれの方が対象で、いよいよ平成生まれの若人が成人の仲間入りという時代となりました。某地域の「荒れた成人式」というテレビ放映が行われますと、よく市民の方々から「白石の成人式も荒れているのでは？」と聞かれます。

男女とも色とりどりの洋装・和装と、目立つ格好の新成人もいましたが、本市の成人式はそのようなことはありませんので、どうぞご安心ください。

「成人」を辞書で引いてみると、「幼い者が成長すること。おとな。現在、日本では男女とも満20歳以上を言う」とあり、さらに「おとな」を引いてみると、「十分に成長した人。一人前になった人。考え方や態度が老成しているさま。分別のあるさま」とあります。

これは当然、一定の定義ではないと思います。年齢を重ねた大人でも、円熟しているとは言えない方もいる反面、新成人の中にはしっかりとした考えを持ち、自分の責任の下で生活している人もいます。いろいろと考えさせられています。それにしても、故小淵恵三さん(当時官房長官)が「平成」と書かれた色紙を掲げて「新しき年号です」とテレビで発表している姿を、女房や友達とこ

の間、さまざまな経験と知識を積み上げて生活してきており、経験値を上げてきたはずで、私たち大人は、今後もそれらを生かし、社会生活の中で責任と義務をしっかりと果たし、「真の大人」に近づかなければいけないと、あらためて思いました。実行委員会では、式当日に募金を実施し、「社会福祉活動に役立ててほしい」と、後日、市内の福祉団体へ寄付されました。

話は変わりますが、新聞などでよく目にする「第3セクター」というものを、皆さんはご存じですか？ さらには「第1」「第2」もあるのでしょうか？

「2月号の答え」
 「牛の小便一八町」の意味は、だからと長いこと。長くたいくつなあいさつなどに用いられます。私も、さまざまな場所であいさつしていますが、「牛の小便一八町」にならないよう、気を付けたと思います。

柳壇

四電 英夫 選

初日の出通過電車で反射して
 笹鳴きのこゑに雅のありにけり 阿部はぎの
 初夢や注文の山伸しかる 服部 忠孝
 忙しなき心鎮める暮れの雨 岩澤 伍峯
 椎の笑の落ちる音するトタン屋根 寺崎 悦子
 遠藤 忠臣

【評】一句目、初日の出に、障子が茜色に染まりゆく様子を写生された句「染まりゆく」が、初日が昇る時間まで障子明かりとなったことを表現された。
 二句目、三句目も初日の出の作品。白石城の白壁に映える、美しい元日の風景である。
 四句目、まさに今、雪合戦の雪つづてを一生懸命作っている最中。間もなく合戦のホイッスルが鳴ることだろう。子どもらの声まで聞こえてくる作品。

幸せの線は自分で低く引き 阿部みさ子
 開けるまで夢を持たせる福袋 水戸 光穂
 はがためて歯がかみくだけ医者通い 遠藤 行夫
 やさしさに触れて人とのいい出会い 草野 清
 人間のエゴで白鳥追いやられ 寺崎 悦子
 衣食住ありて今年は幸と言う 大庭 良子
 年金と亡夫に感謝初日の出 阿部はぎの
 難聴のテレビの字幕命綱 高子うこん
 俄か客サイフも私も風邪をひき 齋藤 典子
 元旦は八十回も飽きぎきた 梶川善二郎

【評】一句目、衣食足りて礼節を知ると言われるが、高望みをしないことが幸せの秘訣。「欲はなく静かに笑っていたいもの」賢治？
 二句目、中身が分からないから買うのが福袋。最初から分かっていたら買わないかも知れない。結婚も同じなどと言う事なれ。
 三句目、歯固め餅は、長寿を願う歯を丈夫にするためのもの。それを噛んだら歯が砕けたとは皮肉。角を矯めて牛を殺さぬよう。



国際コーナー

International Corner

Tooth Fairy 「歯の妖精」

皆さんは、小さいころ歯を抜いた時、その歯をどうしたか、覚えていますか？ オーストラリアでは、子どもたちはその歯をきれいに洗い、封筒に入れて枕元に置きます。少々おかしな習慣ですが、きちんとこの習慣を守る良い子には、とてもうれしいことが待っています。そう、寝ている時に「Tooth Fairy (歯の妖精)」がやってきて、歯をお金に入れ替えてくれるのです！ もちろん、その正体は「妖精ようなお母さん」。でも、それは内証のお話。どうです。すてきな習慣でしょう。

たので大変。兄はもっと悲惨で、小学生のころは、夜になると鍵のようなもので矯正器具をきつく閉められ、泣き声が家中に響いていました。ちなみに母国では、歯を矯正する小学生がたくさんいます。それにしても歯医者は高い。4本の親知らずを一気に抜いた経験から言えるのですが、治療費や人件費、薬代、相談料、治療費、保険料などを合わせると、本当に恐るべし。親は大変です。父がなぜきちんと貯金していたのか、理解できました。

調べてみると、カナダやアメリカ、デンマーク、イギリス、ドイツ、アイルランド、イタリア、オランダ、ニュージーランド、ポルトガル、南アフリカにも、この習慣がありました。そして、日本や韓国、ベトナム、インドでは、上の歯は床下に、下の歯は屋根に向かって縁側や窓などから放り投げる習慣があるそうです。

さらに面白いのは、海外の歯磨き粉事情です。オーストラリアでは、歯を強くするため、歯磨き粉はもちろん、水道水にもフッ素を加えています。もちろん、糖分はほとんど入っていません。日本では、水道水にフッ素を入れていないので、市外に住んでいるALTに話を聞いたところ、両親から毎月、歯磨き粉を送ってもらっているのだとか。確かに日本の友人と話しても「歯を折った」、「歯を抜いた」、「歯が弱い」など、歯に関する話題はそれほど多くないですね。これも、考え方や習慣の違いなのだと思います。皆さんも海外に行ったときは、歯磨き粉がどんな味がするか、ぜひ試してみてくださいね！

オーストラリアでは、社会全体で歯を大切にしています。白く美しい歯並びの歯であるようにと、親は大金を出して子どもたちを歯医者に通わせます。私も1年ほど通っていました。その間、ガムやキャンデーは禁止だっ

まちの話題

～あの日、あの時～

学校給食に片倉家のおもてなし膳が登場

子どもたちに食への関心と理解を深めてもらおうと、1月24日から30日まで設けられた学校給食週間。本市では1月26日、江戸時代に片倉家が伊達のお殿様をもてなし膳を参考にした特別献立を、小学校児童約1,900名に提供しました。登場したのは、1824年に白石城主片倉宗景公が、参勤交代中の藩主伊達齊義公を接待したという覚書を基に作った、タイのみそ焼きや温かい温麺などです。白石第一小学校(佐藤茂廣校長)6年の日下日記さんは、「遠い昔の料理を味わえてとてもうれしい。温麺は大好きでよく食べています」とうれしそうに話していました。日本の学校給食は、1889年に山形県鶴岡町の忠愛小学校で、十分に食事のできない子どもたちに昼食を食べさせたことから始まりました。1946年12月24日、

ユニセフからの援助物資を基に学校給食が再開。冬休みのため1カ月遅れの1月24日を学校給食記念日とし、この日から1週間を学校給食週間としました。



▲おもてなし膳をおいしそうに味わう児童たち